

令和4年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

【第3回】

令和4年9月13日（火） 午後6時00分～ 場所：総合学習センター

「教育論文のまとめ方」 講師：広幡小学校 加藤 良彦指導員 城南小学校 秀野 亜友指導員

教育研究論文に挑む意義

なぜ、教育論文を書くのか？

→目の前の子供のため（書くことによって子供を育てる）

教師自身の成長のため（書くことによって自分を育てる）

実践なくして論文なし 理論なくして研究なし 検証なくして成果なし

優れた実践≠優れた論文→論文の価値と実践の価値は別のもの

教育研究論文の基本構成

序論 5～10%（1はじめに・主題設定の理由、研究の動機）、本論 80～85%

（2研究の構想・目指す子供像、研究仮説、手だて、抽出児童・生徒、単元構想）と3研究実際・実践と考察）、結論 10～15%（4成果と課題・手だての検証、今後の課題）が目安になる。

論文の書き方（理論部分）

研究主題は、論文の顔になるため、論文の内容、執筆者の意図を端的に表したものにするとよい。また、主題設定の理由は目の前の子供の姿から、こんな子供にしたい、こんな力を身に付けさせたいという願いを明確に書くとよい。**目指す子供像、仮説、手だてまでが一貫していることが大切**である。抽出生は、学級の子供の実態を浮き彫りにしている子供、この子をなんとか〇〇したいという教師の願いから選ぶとよい。

論文の書き方（実践部分）

実践の3本柱は、①事実と考察②客観的・具体的③資料の活用・引用である。教師が講じた手だてにより、子供がどのように変容していったのか、資料を用いて提示する。学習記録、ワークシート、対話記録、教師メモ、授業記録、生活日記、座席表、写真などが挙げられる。考察は仮説の目指す姿が見られたかどうかで述べる**ことが大切**である。研究の成果は、手だてを講じたことで、仮説の目指す姿に迫ることができ、仮説が妥当であった部分について述べる。課題は、自分の研究によって何が分かり、何が問題や課題として残ったのかを明確に述べる。

よい教育研究論文の条件とは

（1）子供を前面に出し、一人一人の子供を大切にしているもの（2）論旨が明確で一貫したもの（3）体裁が整っていて、内容が正確なもの（4）創造的な研究が継続的・集中的になされているもの（5）明確な文章表現や記述であるもの（6）応募規定に準拠しているもの（7）読み手を意識した「作品」になっているもの

質疑応答

- ・仮説を立てるにはどうしたらよいか。
⇒学習指導案を書く際に教師の支援を書く。この中で特に中心的なものを手だてとすればよい。何を一番工夫したのか、どこが魅力的か、こうしてみましたが、皆さんどうですかと研究として提案ができるものものがよい。
- ・教材の選定のアドバイスはありますか。
⇒先生の願いがあるので、この子供たちはこうだから、こういう教材がふさわしいかなど教材を模索するして選ぶとよい。
- ・主題設定を書くときに、学指導要領以外でよいものはないか。
⇒全国学力学習状況調査でこういう力が弱いという部分や、主体的・対話的で深い学び、統合的・発展的などの視点で書くのもよいのでは。

加藤嘉一部長先生のお話

「先行研究」「先行文献」をまず読んで、まねできそうなものに自分なりにアレンジを加えて研究するとよい。数学の専門である私たちは、数学にかかわる研究をしていきたいものである。

今回は他教科の先生方にもご参加いただき、論文のまとめ方について学びを深めることができました。目指す子供像と仮説の目指す姿のつながり、仮説の方策部分と手だてのつながりなどの実践問題を用いながら分かりやすく丁寧にご指導いただき、論文を書いてみようと思いをもちた先生も多かったのではないのでしょうか。今後も多くの先生にご参加いただき、充実した会にしていければと思います。

